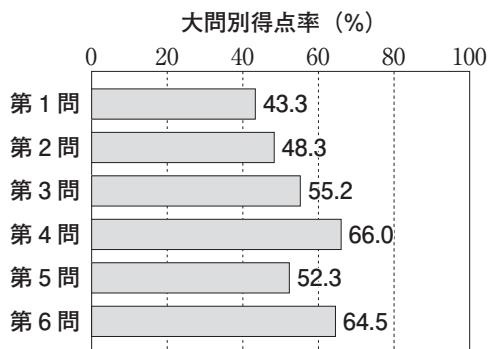
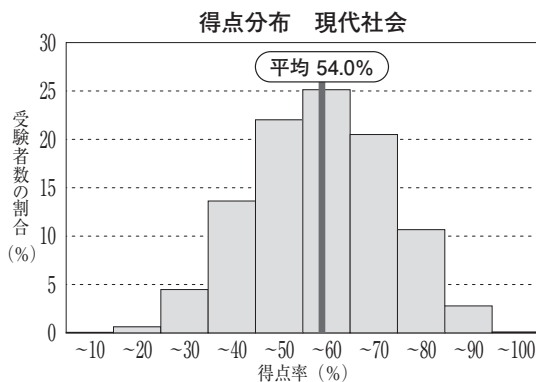


# 現代社会

本番への準備は完成しつつある。今一步の仕上げを。

## I. 全体講評

今回の「最終12月センター試験本番レベル模試」における現代社会の平均点は54.0点。前回よりも7点程度アップし、2016年度で最も高い平均点となった。大問別に見ると、「現代社会」特有の出題であった第4問「公害・地球環境問題」、第6問「青年期」で6割以上の高い得点率となっている一方で、理論的事項が多く問われている第1問「基本的人権、日本国憲法」、第2問「国際政治」が平均得点率を大幅に下回るレベルの得点率となっている。受験者は本番レベルの準備を遂行しつつあるが、まだ苦手な分野・事項を持っていることが示された結果となっている。



## II. 大問別分析

### 第1問 基本的人権、日本国憲法

民主政治の基本原則、天皇制と憲法の関係への理解徹底を。

日本国憲法について、民主主義の原理からその現実まで問う、理論的出題中心の大問であったが、得点率は最も低かった。政教分離に関する出題である問3 [3]、新しい人権についての問6 [6]の正答率は高かったが、民主政治の基本原則である法の支配についての問1 [1]、天皇の国事行為についての問2 [2]の正答率が2割を切る水準となり、特に低かった。特に問2は②、④の選択率がそれぞれ正答率を上回った。

### 第2問 国際政治

歴史的側面も踏まえて事項の再確認を。

「現代社会」で苦手意識を持たれやすい国際分野を中心とする内容だが、この模試で2番目に低い得点率の大問となった。受験者が苦手意識を払拭しきれていない内容であったことを示すものとなっている。中でも戦後日本の外交についての問1 [9]と、戦後日本の外交原則の理解を問うた問3 [11]は、2割台以下と突出して正答率が低くなっている。特に問3は報道で取り上げられている「積極的平和主義」を戦後日本の方針と誤認した受験者がほとんどであり、正答率が1割を切り、この模試中最も正答率の低い設問となった。

### 第3問 財政、金融

用語や制度の概念の再確認の徹底を。

理論的事項の中でも苦手とする者が多い経済理論に関する出題だが、この模試の平均得点率を上回る得点率の大問となった。その中で日本の金融機関に関する出題であった問2 [15]と、日本の財政・予算に関する出題の問4 [17]が3割台の正答率となっている。問4は正答選択肢以外も約20~25%の割合でまんべんなく選ばれており、制度や用語についての正確なインプットが進んでいない受験者が多いこ

とを示す結果となっている。経済分野の理論的事項は、正確に定義や仕組みを理解する再確認を徹底しよう。

#### 第4問 地球環境問題

**環境の国際的枠組みの内容確認を徹底しよう。**

公害および環境問題に関する「現代社会」に特徴的な出題の大問であったが、この模試で最も得点率の高い大問であった。その中で最も低い正答率の設問は、**環境に関する国際会議**についての出題であった問2 [23]であった。2割以上の受験者は①を選んでいたが、①を選んだ受験者は「持続可能」という語に引っ張られたことが想定される。環境の国際的枠組みへの理解が他の受験者より弱いことを自覚して、確認を徹底しよう。

#### 第5問 地域経済統合

**時事的事項はただ覚えるのではなく、正確な理解を。**

苦手とする者が多い国際経済に関する出題だったが、得点率は模試の平均正答率とほぼ同レベルであった。受験者の多くが本番に向けて対策を取っていることが明らかになっている。その中で、**TPP**についての問いであった問1 [27]が2割台の正答率で、この大問中最も正答率が低い設問となっている。時事的事項でも、制度に関する事項については確実な理解を徹底しよう。

#### 第6問 青年期

**重要な思想家とその思想の確認徹底を。**

「現代社会」に特徴的な倫理分野の出題であったが、この模試で2番目に高い得点率の大問となった。その中で、**現代思想の思想家**について問う問2 [33]が3割台の正答率となっている。近年では、「現代社会」でも**思想史分野**からの出題が1問は含まれている。主要な思想家については一通り把握して本番に臨みたい。

### Ⅲ. 学習アドバイス

◆見直しと理論的事項の正確な理解を。

本番まで1か月を切る状況の中、受験者の多くは着実に実力を上げていることが、**第4問**での高得

点率などで結果として出ている。ただし、本番で合格レベルを確実に得るためには、もう一段理論的事項の理解が必要である。例えば**第2問問3 [11]**などは、誤答の選択肢を選んだものの、解説を読んでみて「それはそうだ」と思った受験者が多かったのではないだろうか。知っているつもりである知識も、センター試験では**多様な分野と結び付けた問われ方**をするため、正確に理解していないとせっかくの知識を活用できないケースがある。今回の模試で間違えた事項がある場合は、「本番でなくてラッキーだった」と思って、しっかり復習しよう。それが本番での好成績に結びつく。

◆センター試験本番に向けて。

センター試験は、特に努力の成果がはっきりと出る。そしてまんべんなく出題されるため、多くの分野に対応できる力を養成する必要がある。試験まで残りわずかだが、ここからの**努力が必ず成果に結び付く**ので、自分が間違えた個所を復習するだけでなく、少なくとも「日本国憲法における天皇制」、「日本の外交方針の変遷」、「財政・予算」、「TPP」については復習して、本番に備えよう。その上で、必ずいい結果が出ると思って本番に臨んでほしい。皆さんの健闘を祈っている。